

80年ぶりの再開となる江名諏訪神社文化伝統保存会「三匹獅子舞」を助成

～東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド「GBFund」 第10回助成活動を決定～

公益社団法人企業メセナ協議会(理事長:尾崎元規 [花王株式会社 顧問、東京都港区芝 5-3-2])は、このたび「東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド:GBFund」の第10回助成選考委員会を行い、新たに17件を採択しました(一覧は次頁に掲載)。このうち、祭りや郷土芸能を支援する「百祭復興プロジェクト」(以下、百祭復興)枠では8件を採択。今回の助成総額は588万円で、2011年3月23日のGBFund開設以来の助成総件数は213件、助成総額は1億1,289万8,860円となりました。

成長する活動! 段階的・発展的活動の増加

10回目を数えるGBFundでは、震災後に始まった活動をより発展させたり、新たな目標を定め、次の段階へ進むとする活動が多く寄せられました。今回2度目の採択となる「いいたてまでの会」は、福島県飯舘村に残る郷土芸能の記録と保存を主とする前回の活動から、村民主体による子どもたちへの継承作業という活動に変化し、学校の総合的な学習における中長期的な取り組みへと発展しています。また、唐桑大漁唄込復活推進実行委員会の「郷土芸能劇～唐桑ものがたり～」上演は、地域に残る郷土芸能を劇中劇に組み込み、唐桑の歴史文化を素地とした創作劇を実施するもので、郷土芸能が新たな伝承の場を得、さらに発信していく内容となっています。

活動を再開するための支援

地域コミュニティを再生する手がかりとして、郷土芸能の復活と伝承を志す団体は依然として多く、活動を再開するためのきっかけとなる支援が求められています。たとえば、江名諏訪神社文化伝統保存会による「江名諏訪神社の三匹獅子舞の次世代継承者育成にかかわる取り組み」です。1769年に始まった三匹獅子舞で、代理奉納が続いていたものを、震災を機に、80年ぶりに本来の形に戻すための継承活動が始まりました。

多様化する活動

震災から3年が過ぎ、音楽フェスや広域で行われる比較的歴史の浅い祭りなど、多くの人が集うイベント性の高い企画が増えています。今年で3回目となる「気仙沼ストリートライブフェスティバル」は、震災で失われた発表の場をつくったり、音楽をまちじゅうにあふれさせようとする意欲に満ちています。また、旧雄勝町域の郷土芸能団体が一堂に会する「おがつの芸祭 鼓舞」は、仮設住宅に分散している人々が集うために、地元の若者によって企画されました。他にも、震災前にあった地域の文化活動を再開する契機となる公演や、もともと継続してきた活動の実施等、地域で盛んに行われてきた各ジャンルの愛好者による多彩な文化活動の息吹が感じられました。

声なき声を聴くために

支援を必要とする団体はまだ多数存在し、GBFundに寄せられる申請はその一部に過ぎません。ある程度組織力のある団体や、被災地外から人的支援がある事例はわずかで、助成金申請などに労力を使うことができないところがほとんどです。そうした声なき声を拾い上げることがこれから重要となってきます。被災地のより多くの方々にGBFundを知っていただき、ご利用いただけるよう周知にお力添えをお願いします。そしてご賛同者からの寄付金なくしてこの支援は継続できません。まだまだ支援を必要とする方々がいることを日本中、世界中の方々に知っていただくためにも、ぜひご紹介ご協力くださいますようお願いいたします。









東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド「GBFund」 活動状況

[2014年5月30日現在]

寄付総額 127,076,704円

助成総額 112,898,860円

助成活動件数 213件

第10回助成活動一覧 (※活動内容の詳細については別添書類を参照)	
活動名	実施者・団体 (所在地)
女川常夜灯「迎え火プロジェクト」・女川国物語「うみやまさんぼ」他	一般社団法人 対話工房(東京都)
 江名諏訪神社の三匹獅子舞の次世代継承者育成にかかる取り組み	江名諏訪神社文化伝統保存会(福島県)
第3回 気仙沼ストリートライブフェスティバル	気仙沼ストリートライブフェスティバル実行委員会(宮城県)
なつかしい未来創造事業アーティスト・イン・レジデンスプログラム(陸前高田 AIR) 2014	なつかしい未来創造株式会社(岩手県)
YIDFF「311 ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」プロジェクト	特定非営利活動法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭(山形県)
堤町まちかど博物館／堤焼と堤人形の震災復興プロジェクト	堤町まちかど博物館(宮城県)
 第四回 三陸海の盆	特定非営利活動法人 遠野まごころネット(岩手県)
 気仙沼みなとまつり 打ちばやし大競演	少々汐打囃子保存会(宮城県)
「フェスティバル FUKUSHIMA!2014 納涼!盆踊り」を中心とした「プロジェクト FUKUSHIMA!」の活動	特定非営利活動法人プロジェクト FUKUSHIMA(福島県)
 郷土芸能劇 ～唐桑ものがたり～ 上演	唐桑大漁唄込復活推進実行委員会(宮城県)
 おがつの芸祭 鼓舞	チーム鼓舞(宮城県)
島民に向けた写真展「同居湾-2013年浦戸諸島」	つながる湾プロジェクト運営委員会(宮城県)
 飯舘村の伝統文化・芸能を子ども達が継承していくための支援活動	いいたてまでいの会(福島県)
福島を自分史で書き残す活動	『3月10日』制作室(宮城県)
歴史ある「気仙」の文化を継承する「(仮称)気仙職人学校」の伝統大工コースの試行	特定非営利活動法人 伝統木構造の会(埼玉県)
 かもめまつり	かもめまつり実行委員会(宮城県)
 三陸国際芸術祭 2014 -ヒューマン・セレブレーション-	NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(JCDN)(京都府)

 ※百祭復興プロジェクト採択活動

■GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)

GBFund(ジービーファンド、G:芸術、B:文化、F:復興/ファンド)は、2011年3月23日に企業メセナ協議会が立ち上げた芸術・文化による復興支援ファンド。趣旨に賛同くださった寄付者とともに、設立より5年間、被災者・被災地を応援する目的で行われる芸術・文化活動や、被災地の有形無形の文化資源を再生する活動を支援する。次回選考は2014年11月を予定。

■百祭復興プロジェクト

百祭復興(ひやくさいふっこう)プロジェクトは、GBFundのなかで郷土芸能や祭りを重点支援する目的で2012年3月に設置された助成枠。

【本件に関するお問合せ先】

公益社団法人企業メセナ協議会 広報担当: 坂本 GBFund 担当: 佐藤・寺岡
 〒108-0014 港区芝 5-3-2 アイセ芝ビル 8階 TEL:03-5439-4520 FAX:03-5439-4521
 URL: www.mecenat.or.jp/gbfund/ E-mail: mecenat@mecenat.or.jp

第 10 回 GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)助成活動一覧

活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
女川常夜灯「迎え火プロジェクト」・女川国物語「うみやまさんぼ」他 一般社団法人 対話工房(東京都) 2014年4月～2015年3月 迎え火(女川町内)、うみやまさんぼ(女川町内山林、出島遺跡周辺、他)	女川町の新しい伝統・年中行事として、2012年から始まった「迎え火」の継続実施。今年はさらに5つの事業を追加。歩きながら自然の地形と歴史をあらためて知り、専門家の解説を交えながら再解釈、新たなまちづくりに過去の視点を生かす機会を創出する「うみやまさんぼ」。その他「キッチンカー仮設訪問支援伴走」「対話新聞発行」など、すべて地元住民との対話から生まれた事業を協同で実施する。
江名諏訪神社の三匹獅子舞の次世代継承者育成にかかる取り組み 江名諏訪神社文化伝統保存会(福島県) 2014年3月11日～2014年8月31日 江名諏訪神社社務所および境内(福島県いわき市)	1769年より伝わる三匹獅子舞は、80年程前より交流のあった下高久地区の代理奉納が続いていた。震災を機に、あらためて町の伝統行事を自分たちの手で残していく必要性を実感し、「江名諏訪神社文化伝統保存会」を設立。下高久地区から指導を受け約80年ぶりに江名地区として活動を再開した。今年は次世代育成に力を入れ、子どもたちの誇りにつながっていくことを期待し、コミュニティの再生をめざす。
第3回 気仙沼ストリートライブフェスティバル 気仙沼ストリートライブフェスティバル実行委員会(宮城県) 2014年9月28日 気仙沼市田中前界隈の店舗敷地内および駐車場など(宮城県気仙沼市)	今回で3度目となる気仙沼ストリートライブフェスティバルは、震災により奪われた発表の場を作るために始まった。気仙沼市内外からミュージシャンが集い、街じゅうに音楽があふれる一日となる。運営は市民ボランティアによって行われ、音楽活動を中心にした新たなコミュニティを生み出す。回を重ねるごとに参加者が増えており、今後の継続的な開催を目標にする。
なつかしい未来創造事業アーティスト・イン・レジデンスプログラム(陸前高田 AIR)2014 なつかしい未来創造株式会社(岩手県) 2014年7月～2015年3月 岩手県陸前高田市内各所及び福島県いわき市市内、女子美術大学(東京)他	陸前高田の経営者を中心に設立された復興まちづくり会社「なつかしい未来創造株式会社」が、若手企業家の育成支援から町のインフラ整備のために宿泊施設「箱根山テラス」を開始するにあたり、文化的な復興を目的にアーティスト・イン・レジデンスを行う。国内外からアーティストを招聘し、2か月程の滞在中に創作活動をする中で、陸前高田市の記憶をつむぎ、創造的な新しい未来へとつなぐプログラムを実施。5年かけて経済的自立をめざす。
YIDFF「311 ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」プロジェクト 特定非営利活動法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭(山形県) 2014年5月～2015年3月(2014年度) アーカイブ本部:山形映画祭事務局(山形県)	過去の山形国際ドキュメンタリー映画祭で上映された震災関連作品を中心に、作品情報・周辺資料を収集し、国内外からアクセス可能なデータベースの構築を行う。東北大学や国立国会図書館、せんだいメディアテークなどと連携し、専門家を招いての会議を行いながら2014年10月公開を目指し進めていく。また、アーカイブ事業や震災記録映画の存在が広く認知されるよう、ゲストを招いてのワークショップや上映会を行う。

活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
堤町まちかど博物館／堤焼と堤人形の震災復興プロジェクト 建築と子供たちネットワーク仙台(宮城県) 2014年6月～11月 堤町まちかど博物館(宮城県仙台市)	藩政時代より焼き物の町として知られた堤町に唯一残る六連の登り窯と堤焼や堤人形コレクションを公開展示する博物館。GBFund 第5回採択により震災で崩落した登り窯を再生し、博物館の再開となった。今回は展示環境の整備を進める。完了後は、学校や児童館等の教育施設との連携を強化し、仙台の焼き物文化に触れる機会の創出や登り窯での焼き物づくりができるようにする。
第四回 三陸海の盆 特定非営利活動法人 遠野まごころネット(岩手県) 2014年8月11日 岩手県陸前高田市	毎年8月の月命日に行われ、今年で4回目となる。震災により犠牲となった人々を供養し、震災の悲劇が風化することなく、各地の郷土芸能が復活することを願って行われる。毎回開催場所を変え、その地の伝統芸能団体を中心となって実施される。今回は陸前高田市で、朝から夜にかけて多種多様な伝統芸能団体が出演する。今後は宮城県・福島県での開催も視野にいれ、活動を継続させていく。
気仙沼みなとまつり 打ちばやし大競演 少々汐打囃子保存会(宮城県) 2014年8月3日 港町臨港道路(宮城県気仙沼市)	1912年より始まった小々汐地区で続いている打ちばやし。1953年に一旦休止されたが、1979年に復活し、それより気仙沼みなとまつりに毎年参加していた。今回の震災で被災した太鼓を、縁あって江戸川区太鼓連盟より寄贈され、活動を再開することができたが、まつり参加のための法被や撥等の備品が未だ不足しているため、徐々に補いながら、会の継続と以前のような活気ある活動をしていく機会とする。
「フェスティバル FUKUSHIMA!2014 納涼!盆踊り」を中心とした「プロジェクト FUKUSHIMA!」の活動 特定非営利活動法人プロジェクト FUKUSHIMA(福島県) 2014年6月1日～2015年3月31日 福島市街なか広場、福島市公会堂、福島テルサ(福島県福島市)、新潟県、札幌市、岐阜県、東京都など	2011年より実施している「フェスティバル FUKUSHIMA!」を今年も実施する。昨年導入した「盆踊り」という形式により、全員参加型となり一体感を創出。さらにステップアップした内容で実施。今年は盆踊りの象徴である櫓の製作に注力しつつ、オリジナルの「ええじゃないか音頭」を定着させる。また「プロジェクト FUKUSHIMA!」として各地のイベントへの出張等、音楽活動を中心にさまざまな形で、福島を発信し続ける。
郷土芸能劇 ～唐桑ものがたり～ 上演 唐桑大漁唄込復活推進実行委員会(宮城県) 2015年3月 宮城県民会館(宮城県仙台市)	約1300年前に紀州地方から鯉一本釣り漁法と共に伝えられた大漁唄込は、唐桑の郷土芸能として長年親しまれてきた。震災後、郷土芸能4団体が団結し、劇団と共に唐桑の歴史物語を創作。伝統芸能を織り交ぜながら物語が展開する。地域の歴史を振り返りながら、先祖から守られてきた文化を伝承していくことを目的とし、多くの動員を見込める仙台にて公演を行う。
おがつの芸祭 鼓舞 チーム鼓舞(宮城県) 2014年8月23日(予定) 旧雄勝総合支所跡地(宮城県石巻市)	仮設住宅に分散している雄勝地区の人々が雄勝の地に戻り、一時を共に過ごすことを目的に実施される「おがつの芸祭」は、地元の若者によって企画された。雄勝法印神楽など地域の芸能団体が出演し公演を行うとともに、住民たちの語らいの場・子どもが喜ぶイベントを合わせて実施することにより、世代を超えた人たちがくつろいで楽しめる時間と空間を創出する。

活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
島民に向けた写真展「同居湾-2013年浦戸諸島-」 つながる湾プロジェクト運営委員会(宮城県) 2014年6月～9月 浦戸諸島開発総合センター内うらとラウンジ「菜の花」、浦戸諸島(桂島、野々島、寒風沢島、朴島)内(宮城県塩竈市)	浦戸諸島を含む地域で生きる若者が、古来より続く海辺の営みと地域文化を学び続け、誇りを持ち、内外に向けて発信していくプラットフォームの形成をめざす、つながる湾プロジェクト。今回は石川県金沢市出身の写真家、喜多直人氏が船長を務めた「TANe FUNe(たねふね)」で2013年より浦戸諸島を巡りながら撮影された写真を、地元住民と交流した記録とともに展示。各島で開催し、島民とともに振り返り、見つけなおすきっかけを生み出す。
飯舘村の伝統文化・芸能を子ども達が継承していくための支援活動 いいたてまでの会(福島県) 2014年7月1日～2015年3月31日 飯舘中学校、飯舘村仮設住宅(福島県福島市・相馬市)	飯舘中学校(現在福島市の仮設校舎)の生徒たちが、飯舘の伝統文化・芸能を総合的な学習で学ぶカリキュラムの実施。1年生は飯舘地区の田植踊りの継承、2年生は飯舘村で語られる民話をもとに紙芝居を制作、3年生は飯舘村の郷土料理再現とヒアリング。仮設住宅のお年寄りが講師になって、世代間の交流をもとに村の伝承を実現する。明確な帰村の目途が立たない状況で、将来村の再生の灯となることをめざす。
福島を自分史で書き残す活動 『3月10日』制作室(宮城県) 2012年10月より継続している活動 双葉町の避難者の方々の集まるコミュニティスペース等(埼玉県加須市)	故郷のことを後世に伝えたいという避難者の思いを受けて始まった。インタビューや、写真や挿絵の編集など多くのボランティアとともに、主に埼玉県加須市に避難していた双葉町の方々を対象として行う。『自分史』を作成することで、その土地の歴史をより立体的に伝え残すことができる。今後は大熊町や浪江町などの営みが途絶えてしまった場所での『自分史』作成を展開し、ゆくゆくは全国各地の『自分史』書き残しができるよう事業化を目標とする。
歴史ある「気仙」の文化を継承する「(仮称)気仙職人学校」の伝統大工コースの試行 特定非営利活動法人 伝統木構造の会(埼玉県) 2014年6月～2015年3月 岩手県気仙地方	気仙地方に古くから伝わる「気仙大工」の文化を後世に伝えるため「(仮称)気仙職人学校」の設立を目指している「伝統木構造の会」が、その前段階として伝統大工プレコースを実施する。GBFund 第5回採択活動として作成した教材テキスト『気仙大工概説』をもとに、全国から参加者を募り次世代育成を行う。新たな地域文化を創造・発信する活動拠点としての学校立ち上げをより具体的にするために、今回のコースを施行することにより受講生のニーズを把握する。
かもめまつり かもめまつり実行委員会(宮城県) 2014年8月24日 気仙沼市中みなと町 142 コミュニティスペース「サライ」前広場(宮城県)	昭和初期より始まった鹿折地区のかもめ通りの浜商栄会で実施しているお祭りの実施。まつりのメインである虎舞「のぼり虎」を演じるために必要となる10m程度の杉丸太で梯子を製作する。震災により分断された伝統と破壊されたコミュニティを、まつりの実施により再構築し、復興への希望を抱く機会とする。

活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
三陸国際芸術祭 2014 –ヒューマン・セレブレーション–	郷土芸能の持つ芸術的価値やコミュニティ形成の礎としての側面をあらためて捉え、新しい文化を築き上げるためのフェスティバルを実施する。地元郷土芸能団体の出演の他、バリ島と韓国から芸能団体を招聘、シンポジウムや「習いに行くぜ！東北へ！！」の開催を通して郷土芸能団体間、地域間の交流を生み、郷土芸能の魅力に多くの人が触れ、そこから新しい芸術や文化が生まれることをめざす。
NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク (JCDN) (京都府)	
2014年8月16～24日	
大船渡市三陸町越喜来、大船渡市末崎町基石海岸(岩手県)、気仙沼市(宮城県)など	